

Ⅲ. 営業活動によるキャッシュ・フロー

まず、「営業活動によるCF」から始めます。ここで、直接法と間接法の違いをよく理解してください。そうすれば残り2つの活動は直接法ですから、簡単に解けるはずですよ。それぞれの項目はどんなものが当てはまるか、まとめた表を下に掲示します。

(1) 直接法

<雑型>

I 営業活動によるキャッシュ・フロー	
営業収入	×××
原材料又は商品の仕入支出	△×××
人件費支出	△×××
その他の営業支出	△×××
小計	×××
利息及び配当金の受取額	×××
利息の支払額	△×××
法人税等の支払額	△×××
営業活動によるキャッシュ・フロー	<u>×××</u> (△×××)

「利息および配当金の受取額」の欄に「有価証券利息」が、「利息の支払額」には「社債利息」が含まれることに注意しましょう。ただし、「有価証券利息」自体は収益ですが、その仕訳はというと（償却原価法を前提として）、

(借) 投資有価証券 ××× (貸) 有価証券利息 ×××

仮に、「×1年期首に額面1,000円のA社社債を満期まで保有する目的で、800円（券面利率年2%、満期日：×5年3月31日、償却原価法：定額法）で取得した。取得原価と額面との差額は金利の調整で認められている。なお、当社の会計期間は×2年3月31日を決算日とする1年間である。」という問題での仕訳は、

<クーポン分>			
(借)	現金預金	200	(貸) 有価証券利息 200
<償却分>			
(借)	投資有価証券	50	(貸) 有価証券利息 50

クーポン分に対しての「有価証券利息」は、キャッシュが影響しており、また具体的にはキャッシュを増加させているので、200増加させます。その反面、償却分についてはキャッシュに変動はなく、C/Sに計上させてはならないので、この50については減らさなければいけません。したがって、C/S上に増加すべき「有価証券利息」の金額は**プラス150**となります。

これは「社債利息」でも同じようになるので割愛します。

ここから例題のラッシュとなります。各例題ごと付け加えるところもいくつかあるため、すべて解く必要はないですが一度は目を通してください。

C/S 項目名	該当勘定科目 (主要勘定のみ)
営業収入	売上、売掛金、受取手形、前受金
原材料又は商品の仕入支出	売上原価(仕入)、棚卸資産、買掛金、支払手形、前渡金
人件費支出	給料、賞与引当金、役員引当金、退職給付引当金
その他の営業支出	上記以外の販・管・費(例：支払保険料) 経過勘定(例：前払費用)
利息及び配当金の受取額	受取利息、受取配当金、 有価証券利息
利息の支払額	支払利息、 社債利息
法人税等の支払額	法人税、住民税及び事業税

a. 営業収入

営業活動による収入です。つまり、現金や当座預金での売上高に**売上債権(売掛金+受取手形)の回収高**も含めます。まずは、基本例題から解きましょう。

例題Ⅲ-①

当期の現金売上は10,000円、当座売上は30,000円、売掛金の回収高は3,000円、受取手形の決済額は7,000円であった。

【解答】

キャッシュ・フロー計算書

I. 営業活動によるCF

営業収入	50,000
営業活動によるCF	50,000

【解説】

慣れないうちは、それぞれ**通常の仕訳**を切ってみます。

現金売上	(借)現金預金 10,000	(貸)売上 10,000
当座売上	(借)現金預金 30,000	(貸)売上 30,000
売掛金回収	(借)現金預金 3,000	(貸)売掛金 3,000
受取手形決済	(借)現金預金 7,000	(貸)受取手形 7,000

すると「現金預金」つまり現金及び現金同等物が50,000円増加していることがわかります。その増加した理由は営業収入なので、C/S上での仕訳は、次の通りです。

(借)現金及び現金同等物 50,000 (貸)営業収入 50,000

帳簿上に記載するような仕訳でないので、少し特殊です。慣れてしまえば、上の仕訳だけでもかまいません。

さて、少し難しくしてみます。「売上」「売掛金」「受取手形」には「前受金」「売上割引」「手形売却損」「償却債権取立益」といった勘定科目が関連して出てきます。こういった処理をするかを見ていきましょう。とはいっても正しい仕訳さえ導き出せば苦ではないはず。

例題Ⅲ-②

次の取引をもとに、営業活動によるキャッシュ・フローの金額を求めなさい。

- 営業活動により取得した額面6,000円の手形を銀行で割引き、割引料200円が差し引かれた残額を当座預金とした。
- 売掛金2,000円の早期決済に伴い、現金割引100円を行った。
- 前期に貸倒処理した売掛金のうち、400円を当期に回収した。
- 得意先から前受金として900円を受け取った。

【解答】各取引の通常の仕訳

1.	(借)現金預金 5,800	(貸)受取手形 6,000	手形売却損 200
2.	(借)現金預金 1,900	(貸)売掛金 2,000	売上割引 100
3.	(借)現金預金 400	(貸)償却債権取立益 400	
4.	(借)現金預金 900	(貸)前受金 900	

ここから、「**現金預金**」が**いくら増加したか**見ていけばいいのです。つまり、 $5,800 + 1,900 + 400 + 900 = 9,000$ 円が「営業活動によるCF」に計上されるべき金額となります。このように、**直接法では「現金預金」勘定の増減を主としてC/Sに計上**していきます。

なお、C/S上での仕訳は、次のようになります。

(借)現金及び現金同等物 9,000 (貸)営業収入 9,000

b.原材料又は商品の仕入れによる支出

営業活動による原材料又は商品の仕入れによる支出です。つまり、現金や当座預金での仕入れに、**仕入債務(買掛金+支払手形)の支払(決済)高も含めます。営業収入の反対**と考えてもいいでしょう。まずは、基本例題からいきます。

例題Ⅲ-③

当期の現金による商品仕入高は40,000円、また買掛金の支払高は10,000円であった。

【解答】

キャッシュ・フロー計算書

I. 営業活動によるCF

商品の仕入れによる支出	<u>△50,000</u>
営業活動によるCF	<u>△50,000</u>

【解説】

やはり、それぞれ通常の仕訳を切ってみます。

現金仕入	(借)仕入 40,000	(貸)現金預金 40,000
買掛金決済	(借)買掛金 10,000	(貸)現金預金 10,000

すると「現金預金」つまり現金及び現金同等物が50,000円減少していることがわかります。その減少した理由は商品の仕入れによる支出なので、C/S上における仕訳は、次の通りです。

(借)商品の仕入れによる支出 50,000 (貸)現金及び現金同等物 50,000

ちなみに、減少を表すときに「△」や「-(マイナス)」を付すことを指示する場合がありますから、それに従ってください。なお、このテキストについては「△」を使っていきます。

また、営業収入の時と同様に、「仕入」「買掛金」「支払手形」には「仕入割引」「前渡金」といった勘定が関連して出てきます。今回もまとめてどういった処理をするかを見ていきましょう。

例題Ⅲ-④

次の取引をもとに、営業活動によるキャッシュ・フローの金額を求めなさい。

1. 買掛金3,000円の早期決済に伴い、現金割引200円を受けた。
2. 仕入先から前渡金として2,000円を支払った。

【解答】

キャッシュ・フロー計算書

I. 営業活動によるCF

商品の仕入れによる支出	<u>△ 4,800</u>
営業活動によるCF	<u>△ 4,800</u>

【解説】

各取引の通常の仕訳

1.	(借)買掛金 3,000	(貸)現金預金 2,800	(貸)仕入割引 200
2.	(借)前渡金 2,000	(貸)現金預金 2,000	

ここから、「現金預金」がいくら減少したか見ていけばいいです。つまり、**△2,800+△2,000=△4,800円**が「営業活動によるCF」に計上されるべき金額となります。なお、C/S上での仕訳は、次のようになります。

(借)商品の仕入れによる支出 4,800 (貸)現金及び現金同等物 4,800

c.人件費の支出

最初の表にあったように、給料や賞与などは、次の項目である、その他の営業支出とは別個にC/Sに計上します。

例題Ⅲ-⑤

当期において、給料80,000円、役員賞与20,000円(前期発生分)、退職一時金10,000円を支払った。

【解答】

キャッシュ・フロー計算書

I.営業活動によるCF

人件費の支出	△110,000
営業活動によるCF	<u>△110,000</u>

【解説】

個別ごとの仕訳を切ります。

給料	(借)給料	80,000	(貸)現金預金	80,000
役員賞与	(借)役員賞与引当金	20,000	(貸)現金預金	20,000
退職一時金	(借)退職給付引当金	10,000	(貸)現金預金	10,000

「現金預金」は110,000円減少していることがわかります。その減少した理由は人件費を支払ったからなので、C/S上における仕訳は、次の通りです。

(借)人件費の支出 110,000 (貸)現金及び現金同等物 110,000

d.その他の営業支出

人件費以外の「販売費及び一般管理費」の当期支払分を指します。営業に関連した「減価償却費」や「支払保険料」などをここへ計上していきます。

例題Ⅲ-⑥

当期において、保険料80,000円、賃貸借料50,000円を支払った。

【解答】

キャッシュ・フロー計算書

I.営業活動によるCF

その他の営業支出	△130,000
営業活動によるCF	<u>△130,000</u>

【解説】

個別ごとの仕訳を切ります。

保険料	(借)保険料	80,000	(貸)現金預金	80,000
賃借料	(借)支払賃借料	50,000	(貸)現金預金	50,000

「現金預金」は130,000円減少していることがわかります。その減少した理由は人件費以外の営業内での支出をしたことによるからなので、C/S上における仕訳は、次の通りです。

(借)その他の営業支出 130,000 (貸)現金及び現金同等物 130,000

e.利息及び配当金の受取額

前述したように、「受取利息」「受取配当金」に、「有価証券利息」も含めることに注意してください。

例題Ⅲ-⑦

次の資料により、営業活動によるキャッシュ・フローを求めなさい。
なお、利息及び配当金の受取額は営業活動によるキャッシュ・フローの区分として記載すること。

損益計算書(一部)		(単位：千円)
受取利息	300	
受取配当金	100	
有価証券利息	200	

【解答】

キャッシュ・フロー計算書

I. 営業活動によるCF

利息及び配当金の受取額	600
営業活動によるCF	<u>600</u>

【解説】

個別ごとの仕訳を切ります。

(借)現金預金	300	(貸)受取利息	300
(借)現金預金	100	(貸)受取配当金	100
(借)現金預金	200	(貸)有価証券利息	200

「現金預金」は合計600千円増加していることがわかります。その増加した理由は利息や配当金を受け取ったためなので、C/S上における仕訳は、次の通りです。

(借)現金及び現金同等物	600	(貸)利息及び配当金の受取額	600
--------------	-----	----------------	-----

f.利息の支払額

左のページと同様に、「支払利息」に、「社債利息」も含めることに注意してください。

例題Ⅲ-⑧

借入金の利息として800千円、また社債利息200千円を支払った。
なお、利息の支払額は営業活動によるキャッシュ・フローの区分として記載すること。

【解答】

キャッシュ・フロー計算書

I. 営業活動によるCF

利息の支払額	△1,000
営業活動によるCF	<u>△1,000</u>

【解説】

個別ごとの仕訳を切ります。

(借)支払利息	800	(貸)現金預金	800
(借)社債利息	200	(貸)現金預金	200

「現金預金」は合計1,000千円減少していることがわかります。その増加した理由は利息を支払ったことによるためなので、C/S上における仕訳は、次の通りです。

(借)利息の支払額	1,000	(貸)現金及び現金同等物	1,000
-----------	-------	--------------	-------

さて、例題文中で、赤太字にした部分はとても重要な論点になります。まだ投資活動及び財務活動も紹介せず、でもこの2つが関係することを説明するのはよろしくないとは思いますが、その詳細は次のページでします。

e' & f' . 利息及び配当金の表示区分（理論的論点）

ここでは、「受取利息」「受取配当金」「支払利息」「支払配当金」の4つが営業活動、投資活動、財務活動のどこに区分されるかを紹介します。現段階では以下の2つの表示方法により記載されます。

(1) 「受取利息」「受取配当金」「支払利息」は「営業活動によるCF」の区分に記載し、「支払配当金」は「財務活動によるCF」の区分に記載する方法

(2) 「受取利息」「受取配当金」は「投資活動によるCF」の区分に記載し、「支払利息」「支払配当金」は「財務活動によるCF」の区分に記載する方法

(1)は前のページの例題通りですね。この区分方法では損益として含まれるかを基準とし、含まれるものは営業活動に、含まれないものは財務活動に記載します。

確かに「支払配当金」のみ損益でなく純資産項目からの減少を表すので、財務活動によるCF」の区分に記載します。

(2)の考えは、「受取利息」は主として「貸付金」から生じ、「受取配当金」は主として剰余金の分配や他社からの利益配当から生じ、特に他社から利益をもらう分配量は自社の有するその他社の取得株式数によります。

これらは資金を運用した結果得た収益、つまり投資活動の成果であるので「投資活動によるCF」の区分記載すべきと考えます。

また、「支払利息」は「借入金」から生じるもので、「借入金」はいわゆる資金調達の一つの手段です。したがって「支払利息」はその資金調達のコストと考えられます。

「支払配当金」も同様に、配当金を株主に渡すことで、また出資してくれるはずだ、という将来的に資金調達のコストであると考えます。この資金調達は純資産の部に入っていきますから、「支払利息」「支払配当金」は「財務活動によるCF」の区分に記載します。

難しい言い方でまとめると、「受取利息」「受取配当金」は投資上のコストとして、「支払利息」「支払配当金」は財務上のコストとして各活動の性格に基づいて区分しているのです。

実際の会社ではどちらの方法を多く採用しているかという(1)のようです。その理由の1つとして、「借入金」の「支払利息」に関係があるようです。

この「支払利息」とは、当事者の意思で発生するものではなく、付随的に発生するものであるため、投資活動にも財務活動にも該当するとは言いえないわけです。

すなわち、どちらの活動にも該当しないものは「営業活動によるCF」に記載されるため、「支払利息」が当該活動に記載されている(1)が妥当であると考えているようです。

I. 総論で貼り付けたセガサミーホールディングスのC/Sにも「投資活動によるCF」の区分には、「利息」や「配当金」の文字はなく、「財務活動によるCF」の区分には配当金の支払額＝「支払配当額」しか記載されていないことから(1)の方法を採用していることがわかります。

難しいですが、試験ではどちらの方法でも出題されうるので、理解しておきたいところです。

下の表を参考に理解を深めてください。

(1)の表示区分方法

受取利息	営業活動によるCF
受取配当金	
支払利息	
支払配当金	財務活動によるCF

(2)の表示区分方法

受取利息	投資活動によるCF
受取配当金	
支払利息	財務活動によるCF
支払配当金	

g. 法人税等の支払額

C/Sに計上される金額は、当期の法人税等中間納付額（「仮払法人税等」）に前期末の「未払法人税等」を加えたものになります。

例題Ⅲ-⑨

次の資料により、営業活動によるキャッシュ・フローを求めなさい。

前期末繰越試算表(一部) (単位：千円)

仮払法人税等	2,000
未払法人税等	4,000

当期において仮払法人税及び未払法人税等を支払った。

【解答】

キャッシュ・フロー計算書

I. 営業活動によるCF

法人税等の支払額

△6,000

営業活動によるCF

△6,000

【解説】

個別ごとの仕訳を切ります。

(借) 仮払法人税等	2,000	(貸) 現金預金	2,000
(借) 未払法人税等	4,000	(貸) 現金預金	4,000

「現金預金」は合計6,000千円減少していることがわかります。その減少した理由は法人税等の支払額なので、C/S上における仕訳は、次の通りです。

(借) 法人税等の支払額 6,000 (貸) 現金及び現金同等物 6,000

直接法はいかに仕訳を行うかにかかっています。これに対し間接法はどうなるか、次のページからみていきましょう。